

育む

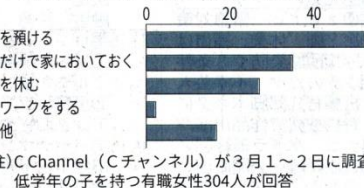
子供目線で防犯に備えを

子供が留守番するときの防犯対策

| 子供に教えること | 保護者がすること |
|-----------------|-------------------|
| ・玄関ドアや窓の鍵かけ | ・子供と一緒に安全の確認 |
| ・呼び鈴や電話に応じない | ・大事な内容のメモ書き |
| ・110番、119番の緊急通報 | ・親子間の連絡手段の確保 |
| ・逃げ込める場所の確認 | ・事故防止策と食べ物・飲料水の用意 |

(注) 武田信彦さんの助言を基に作成

小1～小3の約35%が子供だけで留守番



一緒に鍵かけ確認/電話対応させず

子供を留守番させてよいかどうかは、子供が判断・行動できるかに比例する。性格や成長度合いにもよるが、小学校低学年の子供は総じて留守番にはまだ早い。欧米では13歳未満の子をいかなる場合でもひとりしないのが原則だ。どうしても留守番が必要な家庭は、子供の負担感を減らすために大人の努力が必要だ。

重要なのは子供の目線からの備えだ。大人が大丈夫だと思っても、子供にできないことはたくさんある。例えば、玄関のドアや窓のカギをかけるよう徹底するときは、親子で手順を一緒に確認し、さらにメモに書いてカギの近くに貼っておくこと。

子供にはインターホンや固定電話には対応させない。宅配荷物の受け取りは保護者が在宅する曜日・時間帯を指定する、固定電話は留守電か転送を設定するなど、外部との接点を親がコントロールすることが欠かせない。

忘れてはならないのが、今の状況で何か起きたときに、子供が駆け込める場所の確認だ。普段の駆け込み先が、コロナウイルスを運ばないこと。

今回の休校要請は春休み前までとされるが、実質4月の春休み明けまでの長い期間になる。ウイルスの感染を防ぎつつ子供の安全を守るために、大人はできる限りの責任を果たし、今のうちに行えることを確認するなど先手を打ってほしい。

(生活情報部次長 南優子)

新型コロナウイルスで休校、家での注意点は

新型コロナウイルスの感染拡大を受けた政府の休校要請で、子供たちは前触れなく長い休みに入った。感染予防と同様に重要なのが、休校期間中の子供たちの安全の確保だ。共働き家庭が増える中、自宅で留守番する子供も多い。地域の防犯やリスク対策に詳しい、安全インストラクターの武田信彦さんに注意点を聞いた。



安全インストラクター

武田 信彦氏

ただだ・のぶこ 1977年ドイツ生まれ。「さきママ」のバトルロール教室・主宰。地域住民やPTAへの助言、防犯リーダーの育成を手がけるほか、児童・生徒向け安全教室などで講師を務める。著書に「もしもテロにあったら、自分で自分の命を守る。民間防衛マニュアル」(ウェッジ) など。

世間の最大関心事は今、ウイルス感染の防止だ。大人に余裕がなく、子供の安全に十分な注意が払われないことを危惧している。

子供の防犯面から見ると、今回の一斉休校には見逃せない特徴が3つある。平時の「登下校時の見守り」を超えるレベルの防犯対策が必要なこと。通常営業と自粛が混在するなど、普段の長期休暇の体制とは異なること。子供だけで留守番や外出をする家庭が存在することだ。

防犯対策の基本は子供をひとりしないことだ。ところが今回は、大人の社会が動いているのに子供の社会が止まるという分断が起きた。災害時のように大人と子供の社会が同時に止まる事態とも異なる。

日本が得意としてきた地域の大人による「見守り」活動も弱体化している。ウイルス感染防止の観点からあいさつや声掛けも控えめになり、マスク着用で匿名性が高まっているためだ。通常の防犯体制ではカバーできない今、個々の家庭の対応が欠かせない。

子供がいる女性を対象にC

hannel(東京・港)がアンケートを実施し、働く母親の臨時休校への対応を聞いたところ(複数回答)、「子どもだけで留守番」が43.8%で最も多く、「子どもを預ける」(41%)、「仕事を休む」(22.9%)を上回った。普段なら放課後は学童保育で過ごす小学1～3年生でも「子どもだけで留守番」が34.9%を占める。調査の回答は3月1～2日時点だが、留守番は今後さらに増えるだろう。